

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

第37回全国高等学校 柔道選手権大会



男子団体優勝=国士館 (東京)



入場行進

第52回関東小学生剣道錬成大会



男子団体決勝＝国士舘・飯田（手前）が大腰で一本

全国高等学校柔道選手権大会

男子団体

国士舘が5年ぶりの優勝

女子団体

埼玉栄が2連覇達成



男子団体優勝＝国士館（東京）



女子団体決勝＝埼玉栄・富田（右）対大成・鈴木



女子団体優勝が決まり喜ぶ埼玉栄の選手

第37回全国高等学校柔道選手権大会（主催＝全日本柔道連盟・全国高等学校体育連盟）は3月20・21日、日本武道館で開催され、団体戦と個人戦で高校柔道日本一を争った。

男子団体戦では、国士館（東京）が大成（愛知）に勝ち、5年ぶり8回目の優勝を決めた。女子団体戦は、埼玉栄（埼玉）が大成（愛知）を降し、2年連続5回目の優勝に輝いた。男子個人戦90kg級では、田嶋剛希（国士館）が団体戦と併せて優勝を果たした（詳細は4～7頁）。

全国高等学校柔道選手権大会

国士舘が5年ぶり8回目の優勝



男子団体決勝戦＝国士舘・飯田（右）対大成・古賀

第37回全国高等学校柔道選手権大会（主催Ⅱ全日本柔道連盟・全国高等学校体育連盟）は3月20日（個人戦）・21日（団体戦）の2日間、日本武道館で開催された。

男子団体戦では国士舘（東京）が大成（愛知）に勝ち、5年ぶり8回目の優勝を決めた。女子団体戦は、埼玉栄（埼玉）が大成（愛知）を降し、2年連続5回目の優勝に輝いた。男子個人戦90kg級では田嶋剛希（国士舘）が団体戦と併せて優勝した。

団体戦（21日）

各都道府県の予選を勝ち抜いた男子52校、女子48校が出場。男子は1チーム5名の勝ち抜き戦によるトーナメント、女子は1チーム3名の点取り試合によるトーナメント、試合時間は男女共に3分（決勝のみ4分）で争われた。

男子

準決勝は、国士舘（東京）対大牟田（福岡）と大成（愛知）対日体荏原（東京）となった。国士舘は3人の残しで大牟田に勝利。大成対日体

荏原は、大成が1人残しで日体荏原を破って決勝進出を決めた。

◇決勝

国士舘（東京）	2人残し	大成（愛知）
田嶋剛希	引分	前濱忠大
河田颯志	引分	友田皓太
飯田健太郎（K）	僅差	並木泰雅
飯田健太郎○	大腰	古賀楓人
飯田健太郎	引分	神鳥剛

先鋒、次鋒戦は引分となった。中堅は国士舘・飯田と大成・並木が対戦。飯田は並木に釣り手を掴み（つか）なような攻め続け、並木を僅差（指導2）で降した。

飯田（身長186cm、体重97kg）は大成の副将・古賀（身長174cm、体重73



開会式

kg)と対戦。古賀は体格差のある飯田に対しても積極的な組手争いで、一歩も引かない。しかし、試合開始47秒、古賀が奥襟を組んだ後、飯田は古賀を釣り上げ、豪快な大腰で一本勝。飯田は2人勝ち抜き、大成の大將・神鳥と対戦。飯田は神鳥の攻めに対して体勢を崩される。疲れの見える飯田だが、神鳥の攻めを上手く躲し、引き分けた。2人残して国士館が5年ぶり8回目の優勝を果たした。

◎優勝Ⅱ国士館・岩淵公一監督

「総合力で優勝することができました。故斉藤仁先生の勝負に対する執念を国士館は受け継がなければならいと部員を励まし、厳しい稽古に取り組みました」

■女子

準決勝は、埼玉栄（埼玉）対東大阪大敬愛（大阪）と、大成（愛知）対桐蔭学園（神奈川）の対戦となった。埼玉栄は先鋒・常見と中堅・工藤が一本勝ちし、2対0で東大阪大敬愛を降した。大成対桐蔭学園戦では、先鋒・中堅が引き分ける。大將戦は大成・鈴木が開始45秒で桐蔭の



女子団体決勝＝攻める埼玉栄・常見

川村から袖釣込腰の一本勝を収め、大成が決勝に駒を進めた。

◇決勝

埼玉栄（埼玉） 1-0 大成（愛知）

常見海琴 ○ 袈裟固 黒木七都美

工藤七海 引分 鍋倉那美

富田若春 引分 鈴木伊織

先鋒戦、埼玉栄・常見と大成・黒木の対戦。両者決め手を欠き、時間が経過する。残り1分を過ぎ、常見は黒木の懐にはいるように腰車をかけた。黒木はこらえきれずに転倒し有効を奪われた。そのまま常見が袈裟固で抑え込み、合技で一本勝ち。

中堅、大將は引き分け、結果、埼玉栄が2連覇を達成した。

◎優勝Ⅱ埼玉栄・本松好正監督

「みんながエースだからと伝え、それに選手が応えてくれました。総合力で勝てました。」

個人戦（20日）

男女共に体重別4階級と無差別で行われ、各クラスには各都道府県の代表47名が出場。トーナメント方式で、試合時間は3分、得点差がない場合はゴールデンスコア（時間無制限）で勝敗を決した。

■男子

◇60kg級

古賀玄暉（愛知・大成）と菅原大斗（新潟・豊栄）が決勝で対戦。

先に技を掛けるのは古賀。終始攻め続けた古賀は、菅原を指導差（指導1）で降し、優勝を決めた。

◇73kg級

決勝は立川新（愛媛・新田）と古賀颯人（愛知・大成）が対戦した。両者共に指導3を受け、延長戦へ。互いに技を仕掛けるも決めきれない。延長9分50秒、立川が足技で攻



男子個人60kg級決勝＝払腰で攻める古賀（右）



男子個人73kg級決勝＝立川（奥）対古賀

めると、古賀は不用意に後ろに下がってしまい場外へ。古賀は指導4となり反則負。接戦を制した立川が優勝を手にした。

◎73kg級優勝Ⅱ立川新選手（愛媛・新田）

「あそこまで長い試合をして負けたら悔しいので、気持ちで負けないようにと思いました」

◇81kg級

決勝には藤原崇太郎（東京・日体荏原）と笠原大雅（奈良・天理）が勝ち上がった。互いに奥襟を掴み組み合う展開。開始55秒藤原の支釣込足が見事に決まり一本勝を収めた。

◇90kg級

田嶋剛希（東京・国士舘）対田中英二郎（福岡・東海大第五）の対戦は開始早々、田嶋が背負投で技有を奪う。その後も田嶋は攻め続け、1分27秒、再び背負投を掛けると、見事に決まり、優勝を果たした。

◇無差別

太田彪雅（栃木・白鷗大足利）対石川竜多（茨城・水戸工）。太田は攻め込まれた不十分な体勢から小外掛を掛ける。これを石川は内股で切り返し技有を先取。残り時間40秒過ぎ、太田は払腰の有効を奪った後、横四方固で抑え込み一本勝した。

◎無差別優勝Ⅱ太田彪雅選手（栃木・白鷗大足利）

「今はあまり優勝した実感はないですが、嬉しいですね。先にポイントを取られて動揺しましたが、逆転できてよかったです。絶対取り返すという強い気持ちで頑張りました」

■女子

◇52kg級

決勝は坂上綾（兵庫・夙川学院）対常見海琴（埼玉・埼玉栄）。両者の素早い組手争いが続く。積極的に攻める常見だが、相手の袖口を持っ



男子個人90kg級決勝＝田嶋（右）が背負投げで技有を奪う

てしまい、指導1を受ける。その後も互いに技を掛け合うが決まらず、指導の差で坂上が勝利を収めた。

◇57kg級

決勝は谷川美歩（静岡・藤枝順心）と舟久保遥香（山梨・富士学苑）が顔を合わせた。開始42秒、谷川は舟久保から内股で有効を奪い、そのまま抑え込み横四方固で一本勝した。

◎57kg級優勝Ⅱ谷川美歩選手（静岡・藤枝順心）

「落ち着いて試合ができるよう練習



女子個人57kg級決勝＝谷川（手前）が内股で有効を奪う

してきました。決勝でも、落ち着いて投げて、立ち技から寝技への移行ができてよかったです」

◇63kg級

嶺井美穂（神奈川・桐蔭学園）対鍋倉那美（愛知・大成）。残り50秒を切り、鍋倉は指導1を受ける。鍋倉は内股で攻めるも嶺井の体勢は崩れない。接戦を制した嶺井が指導の差で、優勝に輝いた。

◇70kg級

青柳麗美（鹿児島・鹿児島情報）対中江美裕（愛知・大成）。青柳は、中江の大内刈を上手く返し、有効を奪うと、横四方固から上四方固に変



女子個人無差別＝荒谷（上）が抑込みで攻める

化して一本勝。青柳はノーシードから勝ち上がり、優勝を果たした。

◎70kg級優勝Ⅱ青柳麗美選手（鹿児島・鹿児島情報）

「今日は調子もよかったですし、運もよかったです。インターハイでも優勝して、いろいろな大会で活躍できる選手になりたいです」

◇無差別

昨年3位の荒谷莉佳子（東京・帝京）は決勝で鈴木伊織（愛知・大成）と対戦した。鈴木は積極的に攻め袖釣込腰を仕掛けるも決められない。荒谷は、鈴木が技を掛けつづけた所の隙をつき、上四方固で一本勝した。



女子団体優勝＝埼玉栄（埼玉）



男子団体優勝＝国士館（東京）

心技体人を育てる総合誌

月刊 武道



男子個人戦優勝者＝左から古賀、立川、藤原、田嶋、太田



女子個人戦優勝者＝左から坂上、谷川、嶺井、青柳、荒谷

【大会結果】

■男子団体①国士館（東京）②大成（愛知）③大牟田（福岡）、日体荏原（東京）

■女子団体①埼玉栄（埼玉）②大成（愛知）③桐蔭学園（神奈川）、東大阪大敬愛（大阪）

■男子個人

▽60 kg級①古賀玄暉（愛知・大成）②菅原大斗（新潟・豊栄）③小島隆仁郎（愛媛・新田）、杉本大虎（東京・日体荏原）

▽73 kg級①立川新（愛媛・新田）②古賀颯人（愛知・大成）③内村光暉（大阪・東海大仰星）、助永洸太（広島・崇徳）

▽81 kg級①藤原崇太郎（東京・日体荏原）②笠原大雅（奈良・天理）③齋藤悠斗（山形・東海大山形）、橋本涼太（滋賀・近江）

▽90 kg級①田嶋剛希（東京・国士館）②田中英二朗（福岡・東海大第五）③神鳥剛（愛知・大成）、片倉弘貴（群馬・前橋育英）

▽無差別①太田彪雅（栃木・白鷗大足利）②石川竜多（茨城・水戸工）③上野翔平（石川・津幡）、配島剛（埼玉・埼玉栄）

■女子個人

▽52 kg級①坂上綾（兵庫・夙川学院）②常見海琴（埼玉・埼玉栄）③福添みのり（長崎・長崎明誠）、仲田奈央（神奈川・桐蔭学園）

▽57 kg級①谷川美歩（静岡・藤枝順心）②舟久保遥香（山梨・富士学院）③林美七海（大阪・東大阪大敬愛）、栗田ひなの（神奈川・横須賀学院）

▽63 kg級①嶺井美穂（神奈川・桐蔭学園）②鍋倉那美（愛知・大成）③田中志歩（山口・聖光）、小柳穂乃果（福岡・敬愛）

▽70 kg級①青柳麗美（鹿児島・鹿児島情報）②中江美裕（愛知・大成）③吉本朝香（高知・高知）、畠石香花（茨城・土浦日大）

▽無差別①荒谷莉佳子（東京・帝京）②鈴木伊織（愛知・大成）③富田若春（埼玉・埼玉栄）、斉藤芽生（大阪・東大阪大敬愛）

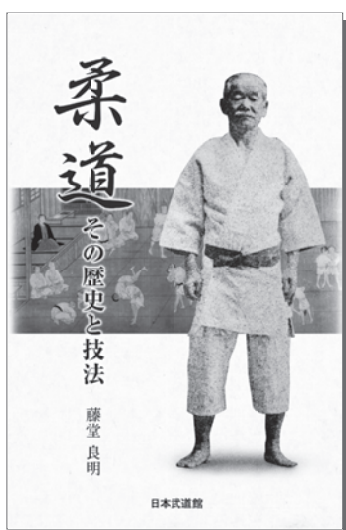
好評発売中!

柔道

その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた「武道としての柔道」を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

第一章 組討ちの起こりと技法

体術の起こりと技法
組討ちの体系化と技法

第二章 柔術諸流派の歴史と技法

竹内流腰廻
関口新心流柔術
起倒流柔術
起倒流柔道
直信流柔道
真之神道流柔術
天神真楊流柔術

第三章 講道館柔道の歴史と技法

講道館柔道の創設と技法
嘉納治五郎の乱取開発
講道館柔道の行事と整備
警視庁武術大会の勝利と技法
学校体操への柔道導入の試み
学校における柔道普及の実態
高専柔道の起こりと技法
嘉納治五郎の他武道への接近
精力善用国民体育の創案と技法
全日本柔道選士権大会の開催と技法

第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法

第二次大戦中の柔道界と技法
第二次大戦後の柔道禁止と復活
格技柔道から武道柔道へ
女子柔道の競技化と技法

第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題

柔道技法の変遷と特徴
柔道の国際的普及と発展
段位制度の国際比較
柔道の国際化と課題



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
（B5判・上製・DVD付・336頁）

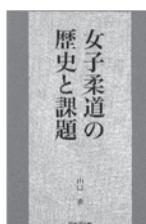


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

（A5判・並製・DVD付・414頁）



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

（四六判・上製・412頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

（四六判・上製・310頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



柔道の国際化 —その歴史と課題—

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・552頁）



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・292頁）



関東小学生 剣道錬成大会

年度初めの決意を胸に 少年剣士2200名が集う



「感謝のことば」新中学1年生
宇賀久倫（大阪・大阪泉佐野心明館）



「ちかいのことば」新6年生
古屋虎盛（埼玉・白岡市剣道連盟）

第52回関東小学生剣道錬成大会（主催＝東京都少年剣道研究会）が4月12日、日本武道館大道場において、関東を主として小学4年生から中学1年生の約2200名が参加して、盛大に開催された。

「文武両道」「和気満堂」を大会の主眼とし、毎年4月、日本武道館において開催している。

この大会は、年度初めに新中学生剣士の進学を祝うとともに、小学生剣士が相互の連帯感、親睦感を深めつつ、より充実した練習と親善の個人試合を体験して、大きな希望と豊かな心を養うことを一つのねらいとしている。

始めの入場行進では、関東を主として集まった少年剣士たちが、晴れの日本武道館での錬成大会に胸を弾ませ、元気よく行進した。

開会式では松村政孝大会会長が挨拶を行った。

続いて「ちかいのことば」として新6年生代表の古屋虎盛選手（埼玉・白岡市剣道連盟）が「中学校へ進学した先輩方、ご進学おめでとうございます。時にはやさしく、時には厳しくご指導いただき、誠にありがとうございます。今日は日々稽古で学んでいることを活かし、正々堂々と闘い抜くことを誓います」と述べ、「感謝のことば」として新中学1年生代表の宇賀久倫選手（大阪・大阪泉佐野心明館）が「日々の稽古は厳しく苦しく、試合にも負けて挫けそうになったこともあるが、先生や仲間にも温かく見守ってもらい、これま

でやって来られました。中学校でもこの感謝の気持ちを忘れずに剣道・学業に頑張っていきたい」と述べた。

開会式終了後、参加者を4つの集団に分け、交代しながら掛け稽古を行った。選手たちは大道場一杯に広がり、破れんばかりの気合いをあげ、元立ちの指導者に掛かっていった。

続いての互角稽古では、元立ちの指導者間で模範稽古となった。選手は大道場の周りに広がり、熱心に見取り稽古を行っていた。

会場を16試合に分け、個人戦トーナメント形式で試合が行われた。選手たちは日頃の稽古の成果を発揮しようと気力をつくし、各試合場で熱戦が展開された。

「文武両道」を主眼とする本大会では、「作文」「絵」「書道」の作品道場を実施している。

特に西ロッカー室で行われた「書道」では、選手たちが列をなすほどの人気ぶり。剣士たちは竹刀を筆に持ち替え、新年度に向けた抱負を書き上げた。

閉会式では万歳三唱を行い、大会は盛會裡に終了した。



各試合場は熱気にあふれ歓声が飛交った



作品道場「書道」の部
関本貴汰君（東京・小平市錬心館）



【大会結果】

◇剣道優勝者（中学1年生）

▽熊崎晃誠（江戸川区・下鎌田剣）▽大島菜々華（宇都宮市・眞和館）▽神代大和（高萩市・高萩武徳殿）▽石井未奈萌（長瀬町・長瀬修心館）▽晝間千弘（横浜市・矢向剣友会）▽本村嘉偉（横浜市・横浜戸塚）▽清水琢光（青梅市・青梅錬心館）▽小泉雄大（葛飾区・新小岩剣友会）▽垣井くるみ（川崎市・御幸剣友会）

◇書道の部

剣友会）▽山吉正晃（6年・染谷警察剣道教室）▽長瀬あかり（6年・五常之会）▽田中さくら（6年・瀬谷区剣道連盟）▽眞里谷育（5年・さつきが丘剣道部）▽竹内舞唯（6年・中島道場）

◇作文の部

■作品道場入選者

▽高橋可純（中1・袖ヶ浦剣道同好会）▽森優晴（6年・習志野剣志会）▽岩崎善大（中1・三浦道場）▽有村卯波（6年・鷺沼剣友会）▽全指有紀（6年・鷺沼剣友会）▽靄岡正基（5年・鴨警察剣道少年団）▽和田ひかる（5年・印南剣道スポーツ少年団）

◇絵の部

▽松山真輔（4年・錬心館中島道場）▽齋藤真宏（5年・大森剣友会）▽山吉正晃（6年・染谷警察剣道教室）▽長瀬あかり（6年・五常之会）▽田中さくら（6年・瀬谷区剣道連盟）▽眞里谷育（5年・さつきが丘剣道部）▽竹内舞唯（6年・中島道場）

◇書道の部

▽吉川海斗（中1・白岡市剣道連盟）▽瀬尾知里（中1・江南剣道教室）▽飯田翔馬（中1・剣修小比企剣道）▽吉田有毅（中1・鋸南剣道）▽加治奈津子（中1・雄武剣友会）▽鎌手隆太（中1・大森剣友会）▽近藤愛（中1・松原剣道スポーツ少年団）▽藤原隆央（中1・根郷剣友会）▽野々口雄斗（中1・根郷剣友会）▽遠藤美悠（6年・東京小島剣友会）▽内田瑞基（6年・印南剣道スポーツ少年団）▽斗ヶ澤紫雲（6年・浦安本部道場）島田錬（6年・舎人剣友会）▽佐藤涼奈（6年・鴨川警察署剣道スポーツ少年団）▽津村藍里（5年・印南剣道スポーツ少年団）▽佐藤桃奈（3年・鴨川警察署剣道スポーツ少年団）

好評発売中

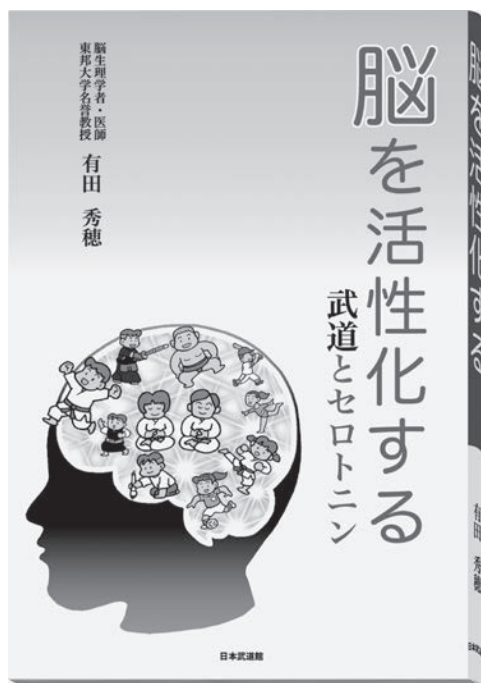
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円+税

有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。



主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン

ストレスとしごき

空海はセロトニン活性の達人

『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング

沢庵の「不動智」とワーキングメモリー

不動明王と心の三原色

『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識

悪夢を消すには?

精進料理とセロトニン合成

「茶の湯」とセロトニンの生活

「自然に体が動いた」を脳科学で解く

勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する

「武道の礼法」は社会脳を育む

相撲の「四股」は品性を育む

書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり

スキップとオキシトシン

空手の稽古は坐禅修行に通じる

脳は「丹田呼吸法」をどう操るか

試合における最適な覚醒状態

サイエンスは「気」をどこまで解明したか

仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長

松永 光

東邦大学名誉教授

有田 秀穂

：他

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

（翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット）

（B5判・上製・DVD付・336頁）

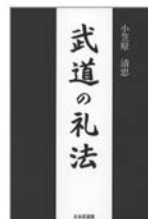


武士道に学ぶ

皇學館大学教授

菅野 覚明 著

（四六判・上製・344頁）



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

（四六判・上製・278頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



＜増補版＞ 私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

（四六判・上製・326頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター

辻 秀一 著

（四六判・上製・248頁）



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

（四六判・上製・220頁）